

1. 会議の基本的な考え方

- ・ 滋賀の自然や地域と共生する力を育むために、本県が有する豊かな自然や、琵琶湖と密接した暮らし、有形・無形の文化財などを生かした様々な地域学習が行なわれている。
- ・ 一方、社会が多様化する中で、教育に多くのことが求められるようになり、十分な地域学習の確保が難しくなっている。
- ・ 地域学習による体験が、体験だけでなく次につながるよう内容の充実が必要である。
- ・ 少子高齢化による担い手不足や、人々のつながりの希薄化により、地域資源の継承が難しくなっている。

- (1) 地域学習による体験を通じて、課題は何か、どう対応すべきかなど主体的に関わる力を育んでいく必要がある
- (2) 地域学習の充実により、自然や地域と共生する力、地域に愛着や誇りを持ち、地域に貢献できる力を育んでいく必要がある。

2. 会議構成

(1) 事務局説明（5分）

- ・ 琵琶湖をはじめとする豊かな自然や伝統、文化を活用した地域学習の現状

(2) 事例報告・ゲストスピーカー（10分）

大津市立真野北小学校 山元 千恵子 校長

歴史的な地域資源「大津まんだら古墳」を生かした地域学習

- ・ 取組の概要
- ・ 学習活動のなかでの子どもたちの反応や様子
- ・ 学習を続ける中で見た教育活動としての意義

(3) 意見交換（30分）

- ・ 子どもたちが主体的に関わることができるよう、地域学習を充実するために
- ・ 自然や地域と共生する力、地域に愛着や誇りを持ち、地域に貢献できる力を育むために